

特色あるふるさと教育事例

学校名	美郷町立邑智小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
5	総合的な学習の時間	山くじら学習	<ul style="list-style-type: none"> ・美郷町の特徴や産業に触れる体験的な学習を行う。 ・「ひと・もの・こと」のかかわりを知り、自分の生き方について考える

1 特色ある取組の概要

- 獣害対策の意義と方法，獣の生態について
- イノシシの活用と動物の命について
- サツマイモ，大豆の苗植え・収穫

2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）

- 活動に携わっておられる方の想いを直接聞く（実感を伴う交流を大切にする）
- 他の教科とのつながりを意識して活動に取り組む（教科横断的にし、多角的な視点を持つ）

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

- 畑を荒らす獣は悪くないという見方をもつようになった。
 - ・野生にある草や果実より人間が作った野菜や果物の方がおいしいから，獣がそれを食べて味を覚えると，人間の作った作物を求めて里に下りてくるが多くなる。
 - ・人間が正しい作物の管理や獣害対策をしないから獣が現れ，その結果，獣は畑を荒らす悪者として扱われるようになる。このことは人間の身勝手によるものだという見方もできる。
 - ・野生に帰らなさいという思いを込めて，ロケット花火や電気柵などを使って獣を追い払う。
- 「人以外の動物」，「植物」，「人」の共通点やつながりについての理解が深まった。
 - ・イノシシはきれい好き。川でよく体を洗っている。
 - ・イノシシのお母さんも子宮で子どもを育てる。へその緒，羊水，胎盤もある。
 - ・大豆の葉を食べる芋虫を，スズメバチが食べて駆除してくれる。
 - ・サツマイモは虫に実をかじられると，食べられないように酸味や苦味を感じる成分を出す。
- 地球にはいろんな命が生きている。その命は互いに関わりあっており，地球は人間だけのものではないという感覚を醸成することができた。

